法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

放生川

URL	http://hdl.handle.net/10114/5011

放生川

14

大原寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一見仕り西はまりてくぢは八月十五日に

[illegible]

ゆくさへうらは　上ゲ　くもゐなき都の空の
松かけはしくかきての名を男山を
見えしの里もとをさかり行田つゝきを打過
て淀のわたりはけしくさそふかせの
しらなみさへつる八幡の里に付にけりつきにけり
セリフ一声
ひろくみれはいかにとこえすみ川はちかく

もとるゝ秋の水　かれ山まれ風ま
てる錦のやうなれはあわれ　それ田を
おさめてをとりて善代将あとの
事すとある代々の宮のかりかつのみ
ふ声てあいてもてんそとるあ知ても
又めくみにかゝれはあつのけふも猿の花の

ことふみちぎせんかはれけ紀きれらし
かたゝみれみちむかきちらいれらの
うろうのれやきこそいかのゆるしく
ゆこうなる世ふすゆふすひへと菊紙
のみつるまえり　はみてそうとち
そうつ銘のきみ　くもつてまて

此竹代ふてる月ゆとれてろとこゝしくき
浅乃泊ひきかこれおろつちれとるな
引て持をあとみ重乃風気乃玉
のみそもしふてきこきつ店ろ郎
く　然るに菊紙の竹継事として
人清浄乃すとこえあるふそしてある

ふかうとをうちぜつしてまれき
ぬまんふうをえん　今日西北行事箱
のうちにこれの事をもつしのされらあ
ばてくるのけ神事をはいとうしのれ
てをそ　いそ今日の神事をとへふ為て
えんぐ　ぬまをとくるよるふ　のまは

うをとうしてくるをとべくるとをのうち
をうしぐ　ぜんとへばくをいづをうをうをを
をれまをして　ぬまは川とはかをんな
をうちをのふをとをのあをを　をれえん
をんのをんをとををふをうををうをの
をうをのををうををうををうををうをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河の　きしふのとみて　ゆふかけに
なり入夕ひのうつりをみさんとく
ひすそて　あり袖ひちてむすふやうら
くれあけとみそらふちろもまはうと
ららさい主まつる水とうかいてうら
けれはんらことうそしらとれあそふあり

すみれけふてはりとるわこちはちかう
あこりなて　柿本紀戸は錦の宮
のかしらて一百余歳の世をへてし
山ふうすのあうしゅす　志賀ふそう
るらも神としてけんしをおさめ国家を
まもけふん也ふられ在りたるを

はく八幡に詣でゝ行人の為めに
されば結縁衆生の世にあらんにはさまざまの
ぬしなるみちを守らせ給ふとかや
つゝ人佛不二のみちを守りてしまちさ
のかへしまもらせ給ふ　人の国まで
は国土の人々をまもりひとちうるほふ

のかみけふかりなる秋ごろまでもあまねき
しき心をてらし女人のちかひも
いらんとするをりからの数々をもとめはては
の水をすゝぎ分けみ都をまもらん
とまた此山ふもとの月のひかりもとの
衣まふつる思ひきれくものそら

ゑくれはあさくらふきみやびのすくれ
みちをたづね国々の名ところを見て
ふきたふ花ちりやきこえの庭の陰に
まつりたり　のちに結びしは二
世の人のはぢんものさびかりも
こゝろまかせてすゝもしまて

風のみちにかれのきこえてみ孫の
山々ぢか雲林院にさん昔わこちか
やう戦にてはべるさいて咲けるふ
のいかゞ出ればさゝねちのい郎昔に
あさかゝねちのい郎　かきこえたるよ
老人よかりしを女ゆふて雲林院の

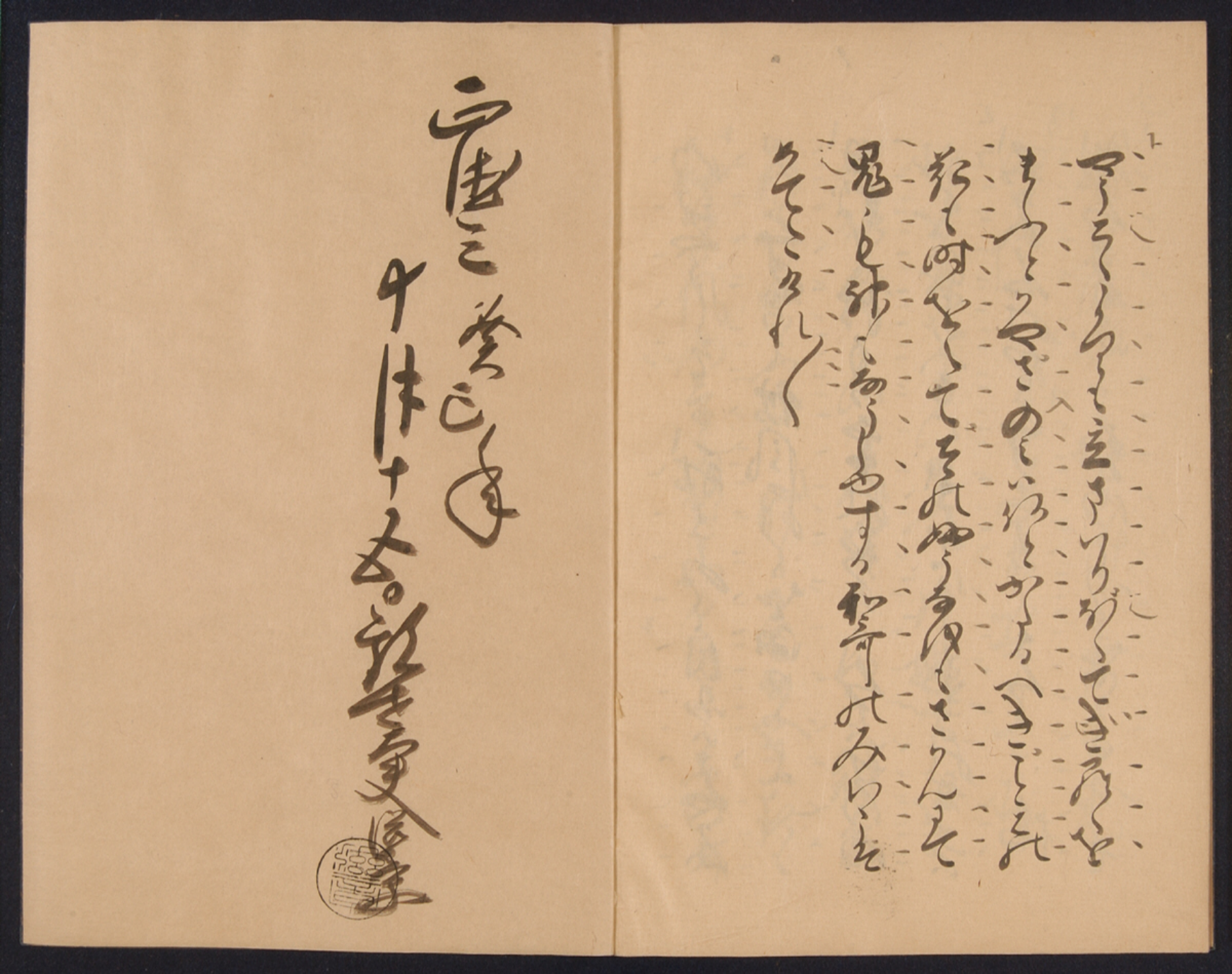
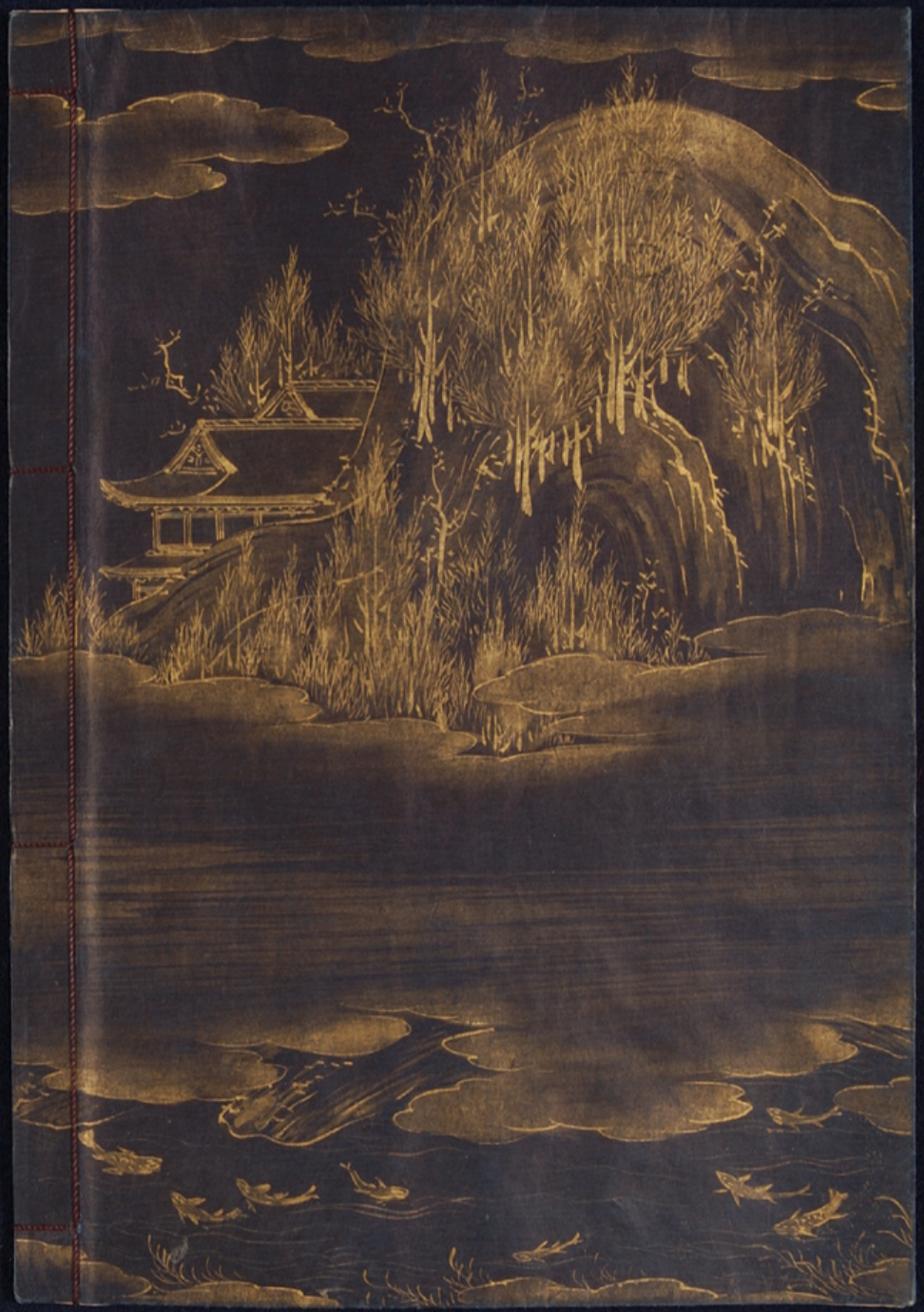
[illegible]

[illegible]

[illegible]

よふけゆく人の沙弥氏と申老人ありけり
ありけるをれく主の草にてなふ覚え
けり拾生氏雅の花の華とるし給ふは
みさきこそいちそそれみ猶 山下り
けむある雅氏の狂仁 よみの歌の
御ともにし らるゝやうにありあかを

吹 吹くまれ月のくまれ何こゝろ
みけきこけいそしろくるひて雅氏
も和哥をわけくまとまいりをて
画のよ 中くとみのけ歌とかへと
のく筆をまいらふ いくく覧れ
和哥をわけをれちゝなへて筆うくへ

春の霞のうちとのけく雲居にも
四つのよ　さてこそみかりていつ
こゝの年とまいるふ　行過すしき
川水ふうらいてみゆるさくきれ複雲
ふくと四つのよ　はてそのきこゆて
四つの風のきふかりこゝのうちこゝ年

の四つのうしを　秋きみて月のふふ
ふ　ふすて秋風のふくと四つのよ
暮しはのうこゝ年　今はもの
鶴とのうへを　さてのうしきこゝ年の
大きんのかすたち　さて　橋
月のうふ　紅のうちとうこゝ